

平成27年4月

滑津原行政区総合計画

将来像 「笑顔もお花も咲き誇る 未来を創る文化の里 桔梗ヶ原」



平成27年度～平成31年度

滑津原行政区

現状と課題

- ① 地域住民の交流が少ない
- ② 環境整備が行き届いていない
- ③ 地区内に多数公共施設を有している
- ④ 園芸が盛んである



行政区の将来像

笑

顔もお花も咲き誇る

未来を創る文化の里 桔梗ヶ原



具体的な取り組み

基本目標1 「環境整備による美しい滑津原づくり」

取り組み	担 当	スケジュール
① ゴミ拾いと花植え お年寄りと子どもとで実施し、環境整備とあわせて世代間の交流も図る。	行政区	平成27年度～
② 郷土文化財 神社の整備 参道の草刈り等を行い、地区のシンボルである神社を美しく保つ	行政区	平成27年度～

基本目標2 「地区住民の交流あふれる滑津原づくり」

取り組み	担 当	スケジュール
① あいさつ・声かけ運動 子どもからお年寄りまでみんなであいさつをすることで、お互いの顔を覚え、住民同士の交流のきっかけを作ります。	地区住民	平成27年度～
② 行事の開催 子どもから大人まで楽しめて、地域に一体感をもたらす行事の開催を検討していきます。	行政区	平成27年度～

資料編(滑津原行政区)

行方原

(中島村史第9章「名所・伝説および地名の起源」より)

地名辞典によると、三城目・矢吹から中畑・滑津にまたがる平野の旧名だと出ている。その東端は阿武隈川であり、西端は関和久・泉崎・大和久の辺までだろうと。なお、『義経記』によると、鎮守府將軍頼義は、駿河の国の住人高橋大蔵太夫に先陣をさせて、下野国イモウという所に着いた。(中略)その軍は白河の関を超えて、「ユキカタ」の原に達し、貞任を攻撃した。貞任はその日の戦いに敗れて、安積の沼へ引き下がった等々と。

この「ユキカタ」が、いつの時代に、現在使われている「ナメカタ」となったのか、また、「ナメツが原」の呼び名とのかかわりについては、定かに知るよしもない。

滑津原行政区の地域資源 (お宝)

文化財



蚕養神社

位置…大字滑津字二ツ山

祭神…豊受姫

縁起…明治二十三年茨城県川尻町より、蚕養神社を分祀したのが、起こりであり、地方養蚕家の崇敬の的であった。

境内は三百坪で、樹木が鬱蒼としていた。祭日は旧九月九日であるという。

私立滑津原実業公民学校記念碑

(中島村史第11章「記念碑・頌徳碑」より)

私立滑津原実業公民学校跡

創立者 小針省至先生

剛毅朴訥仁に近しとは小針省至先生の人となりを現すのにふさわしい言葉である。盛岡高等農林学校出身の先生は農業後継者の育成こそ急務なりと信じ、昭和五年滑津原実業公民学校の創立を企図し、滑津村二つ山の山林原野を水野谷八郎より借り、中畑村の自宅を移築、翌六年四月一日県の認可を得て開校、昭和七年恩給を抵当に資金を調達、新校舎完成、一期、二期の生徒を指導農道鍛錬に血の汗を絞ったが同年七月七日脳溢血で遺校生徒慟哭の中五十二歳で急逝された。嗚呼、天若し、もう五年の生を与えてくれたなら水野谷三郎後継者となり三瓶茂若と協力維持したが昭和十六年学校廃合の指令下、滑津村立青年学校と併合、廃校の運命となった然し卒業生は地方の中堅として活躍。村政に県政に貢献、同窓生一同欣快に堪いない。公民学校の跡地に碑を建て小針先生の御冥福を祈り諸先生の恩沢に感謝し、同窓生一同の心の糧として永く仰望せんことを望ふ。

鍛えたる公民学校の農魂はとわに息づき生き継ぐらんか 双山

昭和 五十八年七月七日建立 同窓生一同

水野谷三郎文並に書



私立滑津原実業公民学校跡記念碑

その他



中島村役場



生涯学習センター「輝ら里」



ふれあいの郷



中島幼稚園



童里夢公園



中島ニュータウン

滑津原行政区